


6 『親と子の仏典童話』講読 ～人格の陶冶へ向けた仏典物語の可能性～ 【全5回】／開催方法：

おか ひろし
岡 宏

近畿大学 講師
中村元記念館東洋思想
文化研究所研究員



受講料 会員料金：¥11,000 早割価格：¥10,000（納入期限：10月19日）

【日 程】【全5回】 1回／月 第4水曜日 ※12月のみ第3週
(10/26、11/23、12/21、2023/1/25、2/22)

【時 間】10:30～12:00

■受講に必要なもの
[テキスト] レジュメ配布

花岡大学氏が本文を手がけた『親と子の仏典童話』（小学館、1979.12.8）は、中村元博士が監修された書籍の一つで、「仏典童話の本義」と題した序文では、善良な人々の人格の陶冶・形成が、「塔院（ストゥーパ）に安置された気高く優雅で慈悲深い仏像への礼拝と、その際に説教者の語った童話や寓話などの物語を聞いて法悦に浸る過程で行われた（趣意）」と述べられています。

この定期講義では、医療と仏教の協働可能性について、「物語」と仏典『大丈夫論』を基軸に考察を行い、昨年度は「絵本」を対象にも選びました。

そこで本年度からの講義では、先の『親と子の仏典童話』を題材に、仏典から童話へと展開する「物語」について、仏典の教義的用語や論議が童話（物語）の主要なモチーフへと展開を遂げていく過程を、邦語訳仏典を参考にしつつ、「看取り」、生活臨床でのさまざまな出来事などを「思い・感じ・考え」てみたいと思います。

【講義計画】

- 第1回「弓の名人」（ジャータカ）
- 第2回「乳のつぼ」（仏説犢子経）
- 第3回「象とはどのようなものか」（六度集経・第8）
- 第4回「おうむの消防」（旧雑譬喻経・第23）
- 第5回「やしのみどすん」（ジャータカ）